島根半島・宍道湖中海ジオパーク散策
― 日御碕周辺と鳶ヶ巣山ハイキング ―

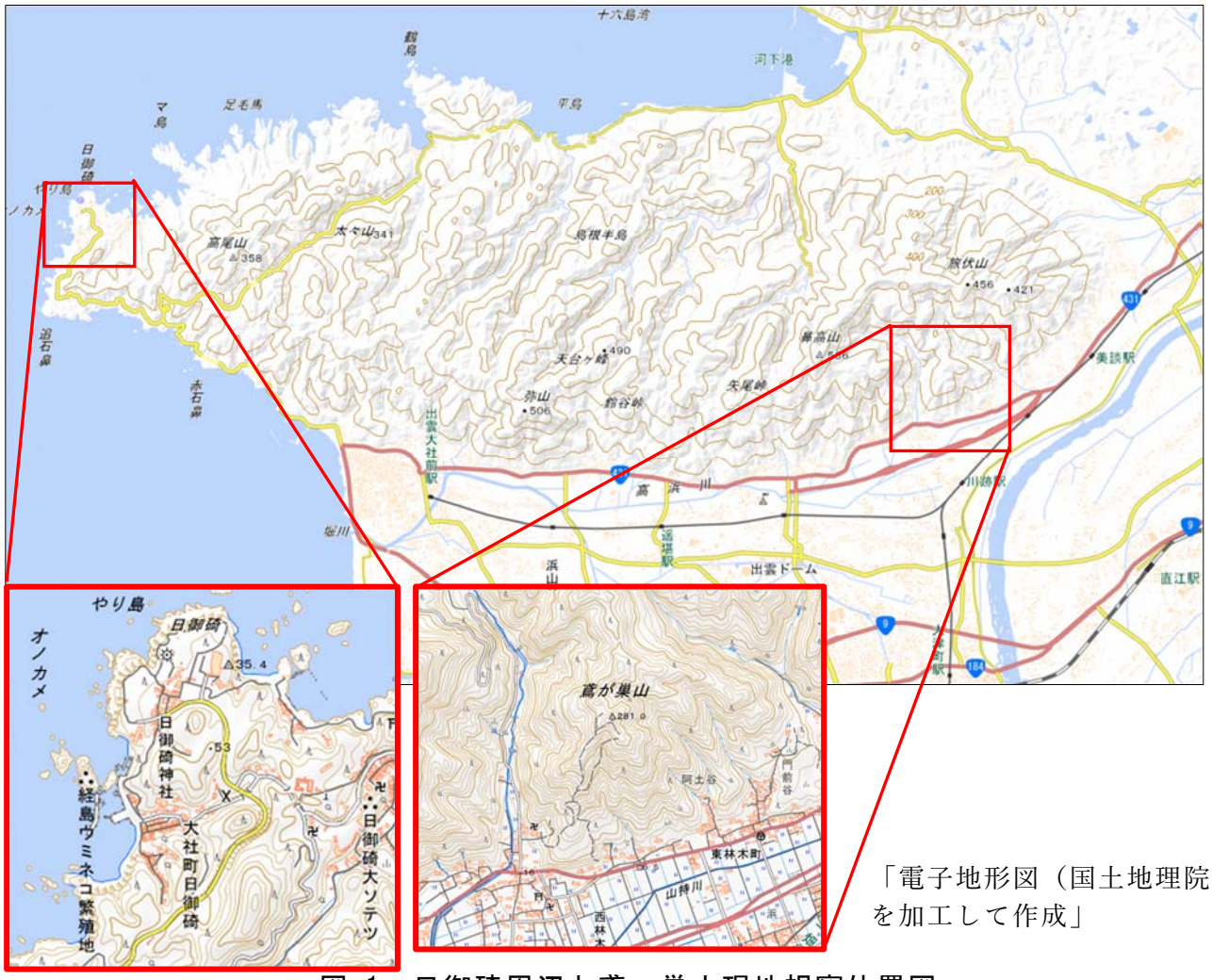
生物多様性研究分科会　松井 亨

１．はじめに

生物多様性研究分科会では、令和４年度より「島根半島・宍道湖中海ジオパーク」を題材の一つとして、生物多様性の視点から調査・視察活動を行っている。本年度は、「火山活動に由来する特徴的な地形と、河川の働きで形成された堆積地形、およびそれらに依存する生態系の理解」を目的とし、午前中に日御碕周辺、午後に出雲市北部の山城跡・鳶ヶ巣山での現地視察を実施した。

午前の視察では、ジオパーク認定ガイドの解説を受けながら、島根半島の成り立ちや海岸地形の形成過程について学んだ。午後は、斐伊川流域を俯瞰できる鳶ヶ巣山に登り、宍道湖へ続く流路と周辺地形の観察を行った。

当日は秋の観光シーズンに加え出雲駅伝の開催日であり、出雲大社周辺は参拝者や沿道応援者、駅伝関係者で大変賑わっていた。日御碕から鳶ヶ巣山登山口への移動も駅伝コースと重なり、活気に満ちた環境下での視察となった。



「電子地形図（国土地理院）を加工して作成」

図-1　日御碕周辺と鳶ヶ巣山現地視察位置図

表-1　島根半島・宍道湖中海ジオパーク視察概要

日時	令和７年１０月１３日（月）スポーツの日
参加者	河野靖彦、吾郷秀雄（午前のみ）、境英治、清水開悟、糸原浩、長嶺元二(午前のみ) 今川文、林巨志、細澤豪志(午前のみ)、角谷篤志（午前のみ）、北村清、松井亨　　計12名
行程	10:30　　日御碕ビジターセンター集合 10:30～12:00　日御碕とその周辺の散策（ジオパーク認定ガイドによる案内） 12:00～12:40　昼食（海鮮丼） 12:40～14:10　日御碕から鳶ヶ巣山駐車場まで移動（途中渋滞に遭遇） 14:10～14:30　出雲駅伝応援（予定外） 14:30～16:00　鳶ヶ巣山ハイキング 16:00　　解散

２．日御碕のジオパーク視察

日御碕では日御碕ビジターセンターを出発し、経島（眺望）、日御碕神社、遊歩道、日御碕灯台を巡る約 90 分の行程を、ジオパーク認定ガイド・吉田勝俊氏に案内していただいた。地質のみならず、鳥類・植物・動物の解説や、日本ジオパーク認定審査時のエピソードも紹介され、多面的な学習となった。

＜柱状節理＞

日御碕海岸には火山活動に由来する安山岩質溶岩が広く分布し、特徴的な柱状節理が発達している。柱状節理は溶岩が冷却する際に形成される割れ目であり、冷却速度などの違いによって柱の太さや形状が異なる。ガイドの解説によれば、東尋坊の比較的太い柱状節理に対し、日御碕の柱状節理が細かく緻密であるのは、溶岩が地表近くで比較的急速に冷却したためであるという。

＜経島＞

日御碕沖に位置する経島は、ウミネコの大規模な繁殖地として知られている。外敵が侵入しにくい地形が、ウミネコの営巣に適した環境を提供しており、地形が生態系の成立に直接関与している事例である。

日御碕の特徴的な地質

経島についての説明

＜日御碕神社＞

続いて訪れた日御碕神社は、『出雲国風土記』にも記される古社である。主祭神のアマテラスオオミカミを祀る下の本社と、スサノオノミコトを祀る上の本社から構成され、社殿は日光東照宮と同じ宮大工の手によるもので、社殿には「三猿」も見られる。

遊歩道では希少植物やイズモサンショウウオなどの解説もあり、これまで何度か訪れた場所であったが、ガイドの説明を通して新たな学びを得る貴重な機会となった。

日御碕神社の三猿

柱状節理の上での記念撮影

＜昼食＞

昼食はビジターセンター隣の「柿谷商店」にて、あら汁と小鉢付きの豪華な海鮮丼を全員で味わった。

あら汁と小鉢が３つも付いた海鮮丼

みんな揃って美味しく頂きました

＜移動＞

日御碕から鳶ヶ巣山登山口へは車で移動したが、好天の連休で出雲大社周辺は大渋滞し、通過に約１時間を要した。登山口駐車場には駅伝の交通規制開始直前に到着し、ちょうど選手が通過する時間帯であったため、急遽、沿道で楽しく応援を行うこととなった。

３．鳶ヶ巣山

鳶ヶ巣山は出雲市の出雲平野北部に位置し、標高 281 m とさほど高くはないものの、中国山地から出雲平野へ流れ込む斐伊川の流れとその土砂の堆積地形を俯瞰できる山である。山頂までは往復約 90 分の行程で、一部急斜面もあるが、地元の方々による整備が行き届いていたために歩きやすい道であった。

山頂部には東屋が設置され、出雲平野へと流入する斐伊川を望むことができた。秋晴れの中での眺望は素晴らしく、河川の土砂運搬による地形の形成を観察するには適した地点であった。

登山道では松くい虫被害によりマツ林が広葉樹林へ遷移している様子や、シカによる影響、ナラ枯れの被害にあったコナラも確認できた。部分的にある人工林も近年は手入れがされていない様子で、生物の多様性を脅かす「４つの危機」の１つである「自然に対する働きかけの 縮小による危機」が確認される現場であった。

改めて自然の影響を受けながらも、人の手が加わることで地域固有の生物多様性を支える役割を果たす里山を維持することの重要性を再認識した現場でした。

急遽、出雲駅伝を観戦しました

棄権、脱落者続出で７名での登頂

４．おわりに

今回の活動を通じ、島根半島・宍道湖中海ジオパークが、火山活動に由来する地質・地形のもとに多様な生物が生息し、人間の歴史・文化とも深く結びついた貴重な地域資源であることを改めて確認できた。

特に、日御碕における地形とウミネコ繁殖地の関係、鳶ヶ巣山から俯瞰した斐伊川流域の景観は、地質・地形の変化が生態系や人間活動に大きな影響を与えていることを実感できる機会となった。こうした体験から得られる感覚的な気づきを基に、科学的な視点で解析を深めていくことが重要である。

今後の分科会活動においても、今回得られた視点を活かして調査と考察を継続していきたい。